



## 2011年度 第3四半期 決算概要

- I. 第3四半期 連結業績概要
- II. 主要商品・デバイスの状況
- III. 2011年度 連結業績見通し
- IV. 配当金について
- V. 来期に向けた業績改善対策

シャープ株式会社

2012年2月1日

### I. 第3四半期 連結業績概要

#### 2011年度 第3四半期 (9カ月累計) 実績

(単位:億円)

	2010年度	2011年度		
	第3四半期 (累計)	第3四半期 (累計)	前同比	差額
売上高	23,294	19,036	81.7%	▲4,257
営業利益 (利益率)	665 2.9%	91 0.5%	13.7%	▲573
経常利益 (利益率)	466 2.0%	-29 -0.2%	-	▲495
当期純利益 (利益率)	218 0.9%	-2,135 -11.2%	-	▲2,353

SHARP

## 売上高における主なポイント（9カ月累計）

- ・国内液晶テレビの想定以上の急激な市場悪化
- ・グローバル需給の悪化による大型液晶の外販減少
- ・国内携帯電話の販売減
- ・市場環境悪化による太陽電池の売上低迷



売上高の大幅な減少  
（前同比81.7%、4,257億円の減収）

SHARP

## 売上高における主なポイント（9カ月累計）

売上高の減少：4,257億円について  
～主な部門別要因～

部門	減収額	主な要因
AV・通信	2,902億円	国内液晶テレビの急減 国内携帯電話の売上減
液晶	1,994億円	テレビ用外販パネルの減少
太陽電池	440億円	市況悪化と単価ダウン

上記に含まれる外部環境影響額

市場価格下落影響額 : 3,043億円  
為替影響額 : 610億円  
タイ洪水影響額 : 148億円

SHARP

## 利益における主なポイント（9カ月累計）

- ・売上の減少
  - ・在庫評価減の実施
  - ・事業構造改革の一層の推進
  - ・繰延税金資産の取り崩し
- } 体質改善、又は  
イレギュラー的費用の計上



- ・営業利益の大幅減益（前同比13.7%、573億円減益）
- ・経常利益の赤字化（▲29億円）
- ・当期純利益の大幅赤字（▲2,135億円）

SHARP

## 利益における主なポイント（9カ月累計）

### 営業利益の減少：573億円について ～主な部門別要因～

部門	減益額	主な要因
AV・通信	254億円	国内液晶テレビの収益悪化
液晶	197億円	亀山第2工場操業損 大型液晶 在庫評価減
太陽電池	191億円	市況悪化と単価ダウン 在庫評価減

上記に含まれる外部環境影響額	
市場価格下落影響額	: 3,043億円
為替影響額	: 99億円
タイ洪水影響額	: 30億円

SHARP

## 特別損益（9カ月累計）

（単位：億円）

	2010年度 第3四半期 累計	2011年度 第3四半期 累計	主な内容	差額
特別利益合計	1	19		+18
大型液晶操業損失	-	258	震災影響に伴う第1四半期での操業停止	+258
事業構造改革費用	57	299	亀山第2工場におけるIGZO展開	+242
和解金	-	188	訴訟関連	+188
その他	46	63	固定資産除売却損等	+16
特別損失合計	103	809		+706
特別損益	-102	-790		▲687

**SHARP**

## 繰延税金資産の取り崩しについて

（単位：億円）

	2010年度 第3四半期累計	2011年度 第3四半期累計	差額
繰延税金資産取崩	0	1,198	▲1,198

税制改正による法人実効税率引き下げによる影響額（取り崩し前による試算）	102億円
業績悪化に伴う繰延税金資産取り崩しの額	1,096億円
合計	1,198億円

**SHARP**

## 部門別売上高(9カ月累計)

部門別売上高は、セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。 (単位:億円)

	2010年度	2011年度		
	第3四半期累計	第3四半期累計	前同比	差額
AV・通信機器	11,414	8,512	74.6%	▲2,902
健康・環境機器	2,012	2,204	109.6%	+192
情報機器	2,009	2,023	100.7%	+13
エレクトロニクス機器	15,436	12,739	82.5%	▲2,696
液晶	7,825	5,830	74.5%	▲1,994
太陽電池	2,035	1,594	78.4%	▲440
その他電子デバイス	2,057	1,752	85.2%	▲305
電子部品	11,918	9,177	77.0%	▲2,740
小計	27,354	21,917	80.1%	▲5,437
調整額	-4,060	-2,880	-	+1,179
合計	23,294	19,036	81.7%	▲4,257

**SHARP**

## 部門別営業利益(9カ月累計)

(単位:億円)

	2010年度	2011年度		
	第3四半期累計	第3四半期累計	前同比	差額
AV・通信機器	368	113	30.9%	▲254
健康・環境機器	145	236	162.8%	+91
情報機器	143	208	145.7%	+65
エレクトロニクス機器	656	558	85.1%	▲97
液晶	60	-137	-	▲197
太陽電池	44	-147	-	▲191
その他電子デバイス	97	80	83.0%	▲16
電子部品	201	-204	-	▲405
小計	857	354	41.3%	▲503
調整額	-192	-263	-	▲70
合計	665	91	13.7%	▲573

**SHARP**

## 2011年度 第3四半期(3カ月)実績

(単位:億円)

	2011年度			
	第2四半期	第3四半期	前期比	差額
売上高	6,742	5,890	87.4%	▲851
営業利益 (利益率)	300 4.5%	-244 -4.2%	-	▲545
経常利益 (利益率)	215 3.2%	-237 -4.0%	-	▲453
当期純利益 (利益率)	94 1.4%	-1,736 -29.5%	-	▲1,831

SHARP

## 部門別営業利益 第2四半期比での主な変動要因

部門	減益額	主な要因
AV・通信	117億円	国内液晶テレビの収益悪化
液晶	325億円	亀山第2工場操業損 大型液晶 在庫評価減
太陽電池	14億円	在庫評価減

SHARP

## 部門別売上高(3カ月)対第2四半期比

部門別売上高は、セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

(単位: 億円)

	2011年度 第2四半期	2011年度		
		第3四半期	前期比	差額
AV・通信機器	2,832	2,702	95.4%	▲130
健康・環境機器	733	727	99.1%	▲6
情報機器	725	635	87.5%	▲90
エレクトロニクス機器	4,292	4,065	94.7%	▲226
液晶	2,218	1,731	78.1%	▲486
太陽電池	592	489	82.5%	▲103
その他電子デバイス	698	598	85.7%	▲99
電子部品	3,509	2,819	80.3%	▲690
小計	7,801	6,884	88.2%	▲917
調整額	-1,059	-993	-	+65
合計	6,742	5,890	87.4%	▲851

**SHARP**

## 部門別営業利益(3カ月)対第2四半期比

(単位: 億円)

	2011年度 第2四半期	2011年度		
		第3四半期	前期比	差額
AV・通信機器	77	-39	-	▲117
健康・環境機器	86	82	94.6%	▲4
情報機器	95	54	57.4%	▲40
エレクトロニクス機器	260	97	37.5%	▲162
液晶	117	-208	-	▲325
太陽電池	-47	-62	-	▲14
その他電子デバイス	54	21	40.1%	▲32
電子部品	124	-248	-	▲372
小計	384	-150	-	▲535
調整額	-83	-93	-	▲9
合計	300	-244	-	▲545

**SHARP**

## 特別損益（3カ月）

（単位：億円）

	2011年度 第2四半期	2011年度 第3四半期	主な内容	差額
特別利益合計	14	1		▲13
大型液晶操業損失	0	0		0
事業構造改革費用	62	83	亀山第2工場に おけるIGZO展開	+20
和解金	80	107	訴訟関連	+27
その他	10	41	固定資産除売却損等	+31
特別損失合計	153	233		+79
特別損益	-138	-231		▲92

SHARP

## Ⅱ. 主要商品・デバイスの状況

液晶カラーテレビ

（単位：億円）

	2011年度						2011年度
	第3四半期		第3四半期累計		年間		年間 前回公表値
	(実績)	前年比	(実績)	前年比	(今回予想)	前年比	
売上高	1,556	54.4%	4,669	71.7%	6,000	74.7%	6,400
販売台数(万台)	321	62.6%	1,009	88.4%	1,280	86.3%	1,350

**【第3四半期(10～12月)の状況】**

- ・液晶テレビ国内需要の急減、及び中国市場の消費鈍化もあり、売上金額、販売台数ともに、前年比大幅ダウン
- ・米国での大型化戦略は成果を上げており、米国での60型以上の売上構成比は約6割をキープ

**【年間予想について】**

- ・国内外での想定以上の価格下落等を織り込み、年間予想を修正

SHARP

## 液晶

※セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は経費高を含んでいます。

(単位:億円)

	2011年度						2011年度
	第3四半期		第3四半期累計		年間		年間 前回公表値
	(実績)	前同比	(実績)	前同比	(今回予想)	前年比	
売上高	1,731	71.6%	5,830	74.5%	8,000	77.9%	9,000

### 【第3四半期(10~12月)の状況】

#### (大型液晶)

- ・海外液晶テレビの需要減少から、堺での外販売上が減少
- ・国内液晶テレビの販売不振から、亀山第2工場の操業度が低下

#### (モバイル液晶)

- ・アンドロイド系スマートフォン向けモバイル液晶の販売減
- ・IGZO液晶のモバイル端末向け量産出荷遅れ

### 【年間予想について】

#### (大型液晶)

- ・市場動向に合せた稼働調整の実施(IGZO技術の導入検討)

#### (モバイル液晶)

- ・IGZO液晶を出荷開始予定
- 但し、上記稼働調整、及び第3四半期までの業績進捗を勘案し、年間予想を修正

SHARP

## 携帯電話

(単位:億円)

	2011年度						2011年度
	第3四半期		第3四半期累計		年間		年間 前回公表値
	(実績)	前同比	(実績)	前同比	(今回予想)	前年比	
売上高	655	60.9%	2,381	73.8%	3,200	77.4%	3,400
販売台数(万台)	181	77.0%	592	77.3%	800	82.1%	900

### 【第3四半期(10~12月)の状況】

- ・従来型携帯電話の落ち込み、海外メーカーとの競争激化等厳しい状況で推移

### 【年間予想について】

- ・液晶テレビAQUOSとの連携機能や、高画質と低消費電力の両立等、当社の強みを活かした特長端末の市場投入を図るも、上記のとおり売上金額、販売台数を修正

SHARP

## 太陽電池

※セグメント(エレトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

(単位:億円)

	2011年度						2011年度
	第3四半期		第3四半期累計		年間		年間 前回公表値
	(実績)	前年比	(実績)	前年比	(今回予想)	前年比	
売上高	489	66.5%	1,594	78.4%	2,000	75.3%	2,400
販売量 (MW)	254	73.0%	831	89.7%	1,100	88.6%	1,350

### 【第3四半期(10～12月)の状況】

- ・欧州での金融不安、各国のFIT制度見直しによる需要減退、価格下落の進行と円高の進展等により海外販売が減少
- ・国内においても海外メーカー等との競争激化により事業環境の悪化が進む

### 【年間予想について】

- ・国内外における、上記の厳しい市場環境を踏まえ、売上金額、販売量を修正

SHARP

## Ⅲ. 2011年度 連結業績見通し

(単位:億円)

	2011年度	2011年度		
	前回発表予想	今回予想	前年比	前回予想からの差額
売上高	28,000	25,500	84.4%	▲2,500
営業利益	850	0	-	▲850
経常利益	670	-300	-	▲970
当期純利益	60	-2,900	-	▲2,960

設備投資額	1,600	1,400	81.1%	▲200
減価償却費	2,400	2,400	94.5%	0

SHARP

## 当期純利益 前回予想からの主な変動要因

前回予想	今回予想	差額(億円)
60	-2,900	▲2,960

内容	金額
売上減、市場価格下落等による利益減少	▲824
事業構造改革費用(液晶、太陽電池)	▲391
在庫評価減等 体質改善費用	▲440
その他の特殊要因(和解金、繰延税金資産取崩)	▲1,305
合計	▲2,960

**SHARP**

## 部門別売上高 年間予想

部門別売上高は、セグメント(エレクトロニクス機器・電子部品)間の内部売上高又は振替高を含んでいます。 (単位: 億円)

	2011年度	2011年度		
	前回発表予想	今回予想	前年比	前回予想からの差額
AV・通信機器	11,500	10,800	75.7%	▲700
健康・環境機器	3,000	2,900	107.5%	▲100
情報機器	2,900	2,800	102.2%	▲100
エレクトロニクス機器	17,400	16,500	83.7%	▲900
液晶	9,000	8,000	77.9%	▲1,000
太陽電池	2,400	2,000	75.3%	▲400
その他電子デバイス	2,600	2,400	91.8%	▲200
電子部品	14,000	12,400	79.8%	▲1,600
小計	31,400	28,900	82.0%	▲2,500
調整額	-3,400	-3,400	-	0
合計	28,000	25,500	84.4%	▲2,500

**SHARP**

## 部門別営業利益 年間予想

(単位:億円)

	2011年度	2011年度		
	前回発表予想	今回予想	前年比	前回予想からの差額
AV・通信機器	280	30	7.4%	▲ 250
健康・環境機器	290	300	150.3%	+10
情報機器	300	300	161.7%	0
エレクトロニクス機器	870	630	79.5%	▲ 240
液晶	330	-190	-	▲ 520
太陽電池	-160	-240	-	▲ 80
その他電子デバイス	130	120	104.0%	▲ 10
電子部品	300	-310	-	▲ 610
小計	1,170	320	29.1%	▲ 850
調整額	-320	-320	-	0
合計	850	0	-	▲ 850

**SHARP**

## IV. 配当金について

期末配当予想 : 5円

	1株当たり配当金
第2四半期末(中間)実績	5円
期末配当金予想	5円
年間配当金予想	10円

**SHARP**

## V. 来期に向けた業績改善対策

### 1. 財務体質の改善

在庫の圧縮、総経費の削減、設備投資の抑制、固定資産の圧縮

### 2. AV事業、及び国内営業体制の構造改革

海外事業の拡大に伴う人員、組織体制の強化  
健康環境やBtoBビジネス等、重点領域へのシフト

### 3. 太陽電池事業の構造改革

地産地消の推進と発電事業の強化

### 4. 液晶事業構造改革の着実な推進

亀山第2工場: IGZO液晶の事業拡大、アプリケーションの拡充  
(PCモニター向け等、高精細パネルの市場拡大)  
堺工場: テレビ用液晶パネルの稼働調整実施  
堺工場におけるIGZO技術の導入検討

SHARP

### 液晶事業構造改革の着実な推進

今期 大幅下方修正の主因は「液晶」

モバイル液晶

亀山第2工場の  
モバイル液晶ライン

大型液晶

堺工場  
亀山第2工場の大型ライン

IGZOの開発・売上のズレ

売上減少と、これに伴う  
稼働率低下

IGZO液晶事業の拡大と  
アプリケーションの拡充

超大型液晶へのシフト  
TV用は内需向けにほぼ特化

生産体制の最適化

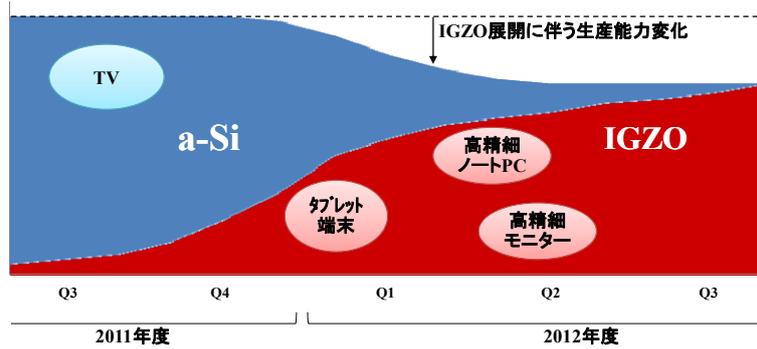
SHARP

## 亀山第2工場

IGZO液晶の事業拡大・アプリケーションの拡充

タブレット端末から、高精細ノートPC、液晶モニターへの展開

亀山第2工場 生産能力推移見込み



SHARP

## 堺工場

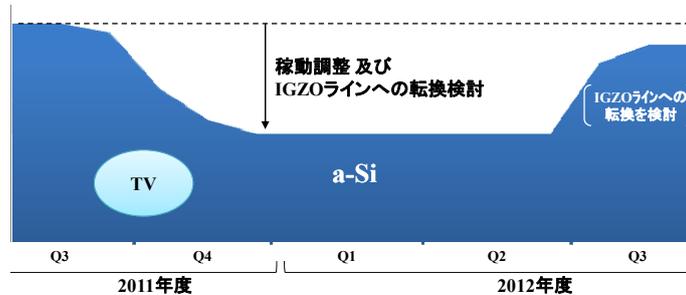
液晶テレビ：G10工場の強みを活かした超大型サイズ、及び内需に特化

テレビ用液晶パネルの稼働調整実施（能力の半分へ）

社内需要に合せた生産と  
適正在庫の実現

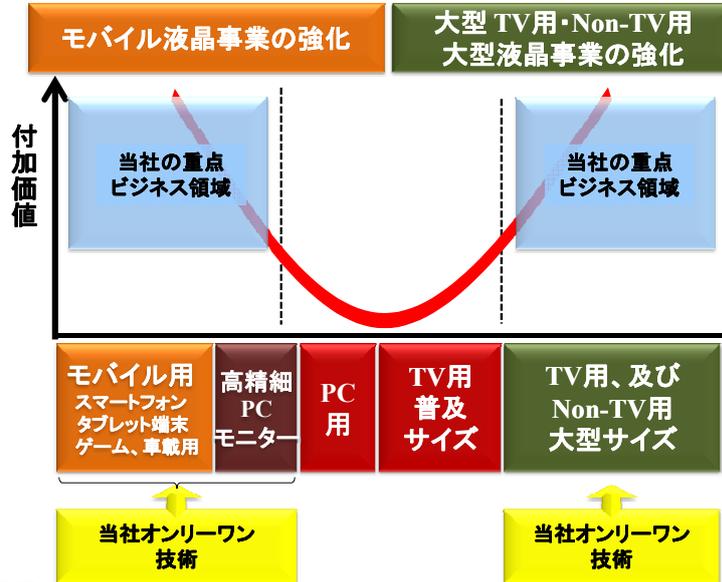
稼働調整を活用し  
G10へのIGZO技術導入を検討

堺工場 生産能力推移見込み



SHARP

## 液晶事業構造改革の着実な推進



SHARP

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動（特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場）
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (6) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

SHARP